

卒業論文要旨

間接民主制に基づく世論力学モデルにおける反固執型要素

1150275 森本潤

The anti-bigot type elements in the opinion dynamics model based on
representative democracy

Morimoto Jun

民主制の一形態に間接民主制がある。根強い少数意見に左右される不安定性を持ちながらも多くの国、多くの状況で使われている。この間接民主制に着目しシミュレーションを試みたのが世論力学モデルである。

世論力学モデルでは根強い少数意見の役割として、「自分の意見を変えない固執型」、「賛否の少ない意見に加担する者」を用意しており、これらの割合が多くなる事で意思決定の結果に大きな偏りが生じる。

本研究では不安定性を抑える要因に「固執型に反対する反固執型」を追加した。すると固執型の影響を適度に弱めつつ結果を極度に乱さない「バランスー」の役割を持つ事が判明した。